

【資料1】文化事業の評価指標に係る検討及び案について

1. 文化事業評価指標に係る検討方法について：前回審議会でもいただいたご意見に周辺自治体調査結果及び国の指標を併せて検討を行った。

2-1. 周辺自治体調査調査内容：周辺自治体に対し、平成30年度に実施した担当文化事業について調査を実施。この資料では調査のうち成果指標について報告する。調査にあたっては事業規模を想定して、以下の3分野に分けて実施した。

- ① 文化祭・芸術祭等について
- ② ①以外の不特定多数の参加者が見込まれる講演会、コンサート等について
- ③ 人材育成事業・子ども向けの体験教室等について

2-2. 周辺自治体調査依頼自治体数：6市1町（うち2団体未回答）

2-3. 周辺自治体調査集計方法：自由筆記にて事業の評価をする際の成果指標上位3位を挙げてもらい、1位:3ポイント/2位:2ポイント/3位:1ポイントと数値化して集計

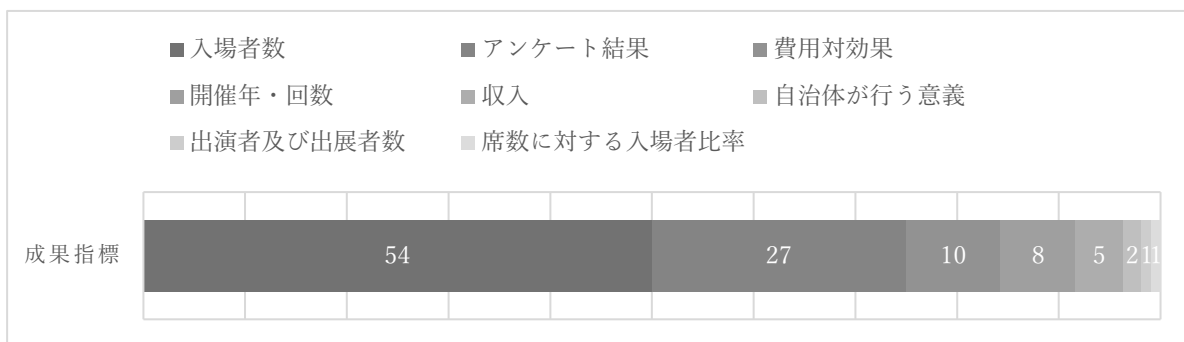
2-4. 周辺自治体調査調査結果（古賀市を含む6自治体分を集計）

①文化祭・芸術祭等について【総事業数：7事業】

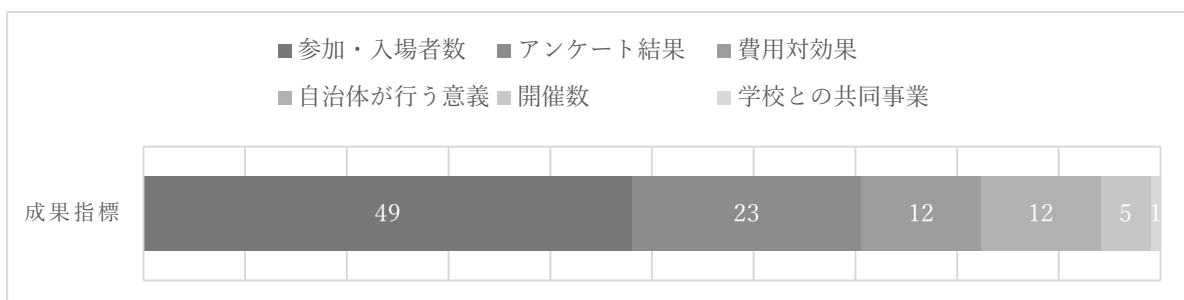


②①以外の不特定多数の参加者が見込まれる講演会、コンサート等について

【総事業数：18事業】



③人材育成事業・子ども向けの体験教室等について【総事業数：17事業】



## 2-5. 自治体調査結果から読み取れる傾向について

### ①文化祭・芸術祭等について

文化祭・芸術祭等は、市民が文化に触れる機会であると同時に、市内で文化活動を行う方々の発表の場でもある。そのため、当市も含めて調査自治体も入場料は無料としている。

今回の結果で特筆すべきは、回答が自由筆記であるにも関わらず、回答が3つのみという点であり、入場者数が50%、残りをほぼ半分で出演・出展者数とアンケートという結果となった。

このことから、文化祭・芸術祭等についてはまず多くの市民等に文化に触れてもらうことを第一にしながらも、発表者として文化に関わる方々の存在やアンケートという第三者評価を重視する方向性が見える。

### ②①以外の不特定多数の参加者が見込まれる講演会、コンサート等について

文化祭・芸術祭等を除く不特定多数の参加者が見込まれる事業についてはホール等を用いてのコンサートや講演会などが挙げられる。ここに含まれる事業については、18事業中半数の9事業が入場料等を有料としており、評価指標にチケット売上等の収入が出てくることとなる。

評価指標のうち、1位は約50%を占める入場者数、続いてアンケート、費用対効果なども挙げられる。①で挙げられなかった費用対効果が3位という点は、要した金額に相当する成果をアピール材料とする傾向が見られるのではないだろうか。

### ③人材育成事業・子ども向けの体験教室等について

①②と違い、比較的少人数を対象とした教室等の事業について調査したものである。ここでは事業の半数以上に何らかの参加者負担金を求めているが、②と違い収入を評価の対象としていないことから、あくまで負担金は材料費等として集金しており、目的は収入よりも参加してもらうことにあるのではないかと考える。

評価指標のうち、1位はやはり約50%を占める参加者、入場者数、続いてアンケート、費用対効果、そして自治体が行う意義が挙げられた。3位に自治体が行う意義が出てくることから、この挙がる事業については「民間でも可能な事業でありながら、市がそれを行うことの意義」について重視する傾向が見られる。

## 3. 国の「文化芸術推進基本計画」について(【参考資料】文化芸術推進基本計画参照)

前回の審議会でご指摘をいただいた「国の指標」に該当するものとして平成30年の「文化芸術推進基本計画」の参考資料に含まれる「進捗状況を把握するための指標について」が考えられる。この指標は、計画の進捗をはかるものであり、最終的に「古賀市文化芸術振興計画」の評価を行う上で参考とすべき項目が多い。今回はこの中から文化全体でなく、事業単位で評価を行う際にも置き換えて用いることが

できると思われる項目を抽出した。

- ・日本の芸術について「非常に良い」「やや良い」と回答する率➡満足度
- ・劇場、音楽堂等に行ったことのある者の割合➡入場者数
- ・美術館、博物館、図書館等文化施設の入場者数・利用者数➡文化施設利用者数
- ・国民の鑑賞、鑑賞以外の文化芸術活動へのそれぞれの参加割合  
➡入場者数、参加者数、子ども、高齢者、障がい者、外国人の参加状況

#### 4. 文化事業指標（案）について

古賀市文化課としては、前回審議会でもいただいたご意見に、前述の近隣調査結果及び「文化芸術推進基本計画」を踏まえ、以下の項目を主な評価指標として上層部や財政部門に成果をアピールしていく。

##### ・入場者数及び参加者数

前回審議会でも古賀市総合振興計画との整合性と併せて指摘されたが、近隣調査、国の方針においても、入場者数は文化に触れる機会として、事業参加者数は文化に触れると同時に実践する機会を提供した数として、評価する上で欠かせない要素であると考え。その考えを併せて述べながら、今後も評価指標としたい。

##### ・アンケート結果

前回審議会でも「質の評価」として、参加者からの声を取り入れる旨のご意見をいただいた。近隣市町村においてもアンケート結果は入場者数に次ぐ重要な要素とみる傾向があるため、アンケートにより満足度やご意見をいただきながら、報告書に項目を追加し、指標に加えていく。

##### ・自治体で行う意義

参加人数が少ない事業であっても、自治体だからこそ行わねばならない事業があると考え。これを踏まえた上で評価指標として重視する項目としたい。

以上3点以外にも、費用対効果や審議会でも指摘いただいた外部発信実績等も加味して、総合的に文化事業に係る実績をアピールしていく。

そのための手段として、前回審議会でもいただいたご意見を基に報告書の様式について、上記指標を示す内容となるよう検討する。（【資料2】前回審議会でもいただいたご意見とその対応について参照）